



ふくおか【Good👍】農業人100  
 主な農産物／酪農(牛乳)

# 岩下 寿秀さん (37歳) (営農地／朝倉市須川)

## 刺激をエネルギーに、自分磨き

《就農のきっかけ》

### 自分の思ったように、やってみたい

24歳の時、「実家に戻り、酪農をしよう。酪農は、自分の生活の一部だ。」と思ったそうです。高校卒業後、大学農学部に進学、そのまま大学院へ進み、牛乳の研究をしました。大学・大学院へと進学したのは、畜産に関連した事で視野を広げたかったからです。子どもの時からずっと、両親は「おまえが跡継ぎだ。酪農をしろ。」なんて一言も言わなかったそうです。「でも、なんとなく漠然と考えていたような気がする。ずっと、手伝いもしていたし。結局は、自分が思ったように、やってみたかったからかな。」そう、岩下さんは照れ笑いました。

《これまでの過程》

### 牛も人も同じ。牛一頭一頭と向き合っ

就農して3ヶ月、「実家以外の酪農を見てみたい。」と、熊本で5ヶ月間研修をさせてもらい、戻ってからは、甘木・朝倉地区のヘルパーの補助をして回りました。その経験から、いろんな形の経営があることを知りました。現在、経産牛45頭、えさの食べ具合や太り具合、毛ツヤなど、毎日観察しています。搾乳している時に蹴ってくる牛もいて、一頭一頭の性格は違うそうです。

牛と向き合いながら、徐々に自給飼料の作付けを拡大しましたが、面積は今がほぼ限界。適期に収穫することで、質の良い飼料に仕上げ、その飼料を食べた牛が牛乳を少しでも多く出してくれればと考えています。また、自給飼料を作ることでコスト低下にもつながっています。

青色申告書も就農直後から見せてもらいました。「いったいどの位の牛乳が搾れているのか」、「我が家の技術がこの地域での位のレベルなのか」、「労働力に見合った所得なのか」知りたかったのです。そのコスト意識が、経営には重要だと感じています。

さらに、牛の病気や怪我もあります。「そんなリスクが起きたときに、どう乗り切るのが勝負。すべては、自分が牛の状態を日々見ていくかどうかだ。」と自分に厳しい岩下さんでした。



プロフィール

- 家族構成 / 祖父、祖母、父、母、本人、妻、子ども3人
- 営農年数 / 約13年
- 耕作(経営)面積 / 経産牛45頭、育成牛35頭、イタリアン8.5ha、飼料稲4.5ha
- 販路 / 県酪農組合連合会

《これからの展望》

### いろんな刺激をエネルギーにして

これからは産次数を伸ばすのが目標です。産次数とは、牧場での一頭当たりの出産回数ですが、事故や病気をすることもあるため、なかなか伸びません。ほとんどの事故は分娩の時に起こります。そのためにも微妙な変化をくみ取れるよう、自分自身の「牛を見る眼」を育てたいそうです。そして、「一頭の牛を長く飼えるようにしたい。酪農の場合は、それが技術の一つ。」と言い切ります。

「条件は違えども、仲間とともにもっともっといろんな酪農家を見て、刺激を受けたい。その刺激をエネルギーにして、自分を磨き、自分なりの『産次数を伸ばす』という目標を達成したい。」そう語る岩下さんは、とても頼もしい限りです。



### Good👍 成功のためのポイント

酪農であれば、まず「牛をよく観察すること」だが、農業全般で考えると「いろんな農業を見て回ること」、「お金の流れを把握すること(要するにコスト管理)」だと思っています。